第 2019-41 号

恵みと真理のニュース

2019 年 10 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

聖書的な価値観と歴史観と国家観を持って国のため祈り、献身するように私を変化させてくださった神様の愛と恵に感謝します。

私が母の胎内にいるときから母は私をついて恵と真理教会に通い家庭で一人で神様を信じる生活をしました。小学生ごろだった母が私を連れて平日の礼拝も熱心に参席して父の救いのため涙で祈った姿が今も目に浮かびます。母の切ない祈りと神様の恵みで父がイエス様を救い主として信じて神様を礼拝する福ある場に来るようになりました。

その後、奇跡的に兄も主を受け入れて礼拝はもちろん奉仕のことまで熱心にしました。私は家族が全て堅固で正しいクリスチャンの人生で生きていると思うようになって、自ら母体信仰者という自負心を持ちました。毎週教会に行って礼拝を捧げて誠実に奉仕して伝道もしたので神様の愛を受ける子供だと確信がありました。

そのように信仰生活を真面目にしていたと思っていた私が一時期霊的に彷徨して信仰の沈滞期を経験しました。数年前、国が混乱だった時期に当会長の牧師が国の状況を霊的でどう見るべきか、聖徒としてどう分別して判断して祈るべきなのかに関してよく話してくださいました。牧師は真で国と教会の先を心配しながらリーダーの知恵の目線でこの状況をご覧になって聖書的で解釈してくださったが、その当時は、わたしはそのような御言葉を聞くたびにむしろ、心が不便でした。それで、私は不平しながらわたしの考えと判断がもっと合理的で理想的だと思いました。アンサン聖殿で教会学校の教師になって奉仕をしながら私は一時期教師として責任だけを持って教会を仕える生活をしました。そうしながらどんどん神様の関係が遠くなり、神様の御心を考えなく私が考えたくて理解したくて、受けたいことにもっと集中するようになりました。

そんな私に神様は青年奉仕宣教会と教会学校の担当教役者達と、そして共に奉仕する青年達と聖徒達と共に考えを分かち合い、神様の御心を求める時間を持つようになりました。わたしの考えと価値観を全部下ろしてただ、神様の御心が何か知る家庭が嬉しくなかったです。これからは回りに人々がする話に耳を防いで、深く根を下ろした私の自我と思想と理念を取り除くことだったからです。この期間は単純に国の状況に対する理解を超えてわたしの全ての価値観と聖書に関して間違ったことが神様の前で徹底的に悔い改めて祈る時間でした。

そのようにわたしの自我を徹底的に壊してから神様が創世記1章1節の御言葉から新しく黙想するようにしました。“ 初めに、神は天地を創造された。”神様は御言葉で全ての満物を作られ、愛の交際のため私たちの人間を作りとても喜びました。そうした創造主の神様は今も生きておられ全ての国と人類の歴史をこの韓国を治めた事実を人格的に悟らせてくださいました。

私が愛する我が国、この韓国にどのように福音が入って来るようになって、どんな価値を基盤として国が建たれたのか知るようになりました。自由と歴史が単純な政治と歴史に関する話ではないことを知るようになりました。神様の偉大さと永遠で生きておられるのを徹底的に心深く信じるようになりました。

神様は私が息を吸って歩く日常的で小さい部分から世界の全ての現状と宇宙の構成と存在まで、これを見て判断する全ての価値観が変えて神様の視線で見るように導いてくださいました。新たに生まれ変わった感じでした。神様は今までわたしの信仰生活がどうしてきたか、奉仕の部署と牧師に対して私がどのように見てきたか一つ一つ省察して悔い改めました。私は小さい部分一つでも神様の前で誇ることがないです。そんな私が人間の頭と考えで教会とわたしの信仰生活を判断していました。また、この国の主権が神様におられることを考えなかったです。更に神様の御心もわたしの人間の知性と経験に照らして判断していました。

このように愚かだった私にも神様が共におられ、私を助けてくださり、わたしを待たせてくださいました 。神様の恵みと愛に感激して涙で悔い改めました。そのように悔い改めの時間を送った後、私が目に見える霊的に見始めました。わたしの人生の中で行う小さい現状から私たちの民族、そして世界の情勢に至るまで、神様の摂理と無関係なことがないのを悟るようになって当会長の牧師の説教に感動と感化されこの時代にとても切実で尊い神様の御言葉であることを悟りました。神様が悟りを与えてくださったのでもっと積極的に神様の御心に従って行くクリスチャンになるのを願っておられると思うようになりました。その時から、私は我が国に対してもっと知ろうと力を尽くしました。韓国のため摂理してこれからも摂理する神様に感謝を捧げてもっと学んで祈るようになりました。韓国は神様の恵みと特別な摂理で建てられて反転してきたことを知るようになりました。偶像崇拝をしていた貧しい国に福音が入って韓川の奇跡を成し遂げてくださり、教会を大きくリバイバルをさせてくださったことに対しては御心と目的があるのを悟りました。最後の時代に北朝鮮が神様を敵対する悪い勢力を壊して福音で民族統一をして、中国とロシアを越えて地のたてまで福音を伝える使命を自由大韓国民が受けたから、私はこのすばらしい国の国民であることを心深く刻むようになりました。

全ての現状と私物を聖書の御言葉で分別して理解するようになり、今までこの最後の日にサタンが妨げるため我が国の政治、経済、社会、文化の全ての霊域で熱心に活動していることを認識するようになりました。今日の韓国教会とクリスチャンがどう行動するべきか深く悟りました。

神様は他方面で我が国に起こっているこの世の最後の時代のしるしを見るようにしてくださいました。家庭と社会と多方面で行っている様々な世の末期の証後さておき、何よりも大なのは他の宗教にも救いがあるといる宗教多元主義と反省商的な同姓はい、フェミニズム、共産周期のような世も小序の兆しを見るようになりました。精神をしっかりとすると全てのあくの流れを見て去ってくださった神様に恵を受けました。感謝しました。このように私を変化してくださって、今日、国のため福音を述べ伝えと祈りながら行動してくださった神様に感謝を捧げました。私を作っておられ、子供にしてくださった神様の御心にかなうだだ、神様の栄光のため私と共に主の手を強くするのが神様の恵みであり、愛であることを告白します。もう、最後の時に私と共にしてくださる主と手を掴んで神様の日が来る前に切に祈って願い愛しながら精米道の義人の道を喜んで歩みます。

[信仰コラム]

心を新にしなさい

”あなたがたは，この世と妥協してはならない。むしろ，心を新たにすることによって，造りかえられ，何が神の御旨であるか，何が善であって...”　（ローマ書 12:2）

心の技能と役割はとても多様です。心は考えて、感じて、悟って、決定する事をします。知性と感性と意志の生地です。人は心を通じて神様の行われた事と言約を記憶して、神様の御旨を分別します。神様に求めて神様を敬います。心の状態は信仰と生活に甚大な影響を及ぼします。従って、自分の心を慎重に察して最善の状態になるようにすべきです。”あなたがたは，この世と 妥協してはならない。むしろ，心を新たにすることによって，造りかえられ，何が神の御旨であるか，何が善であって，神に喜ばれ，かつ全きことであるかを，わきまえ知るべきである。”としました。心を新にするために私達が実践すべきのことを調べてみましょう。

第一は、高くなった心を低くすべきです。

人が持つ不満には二種類の性格があります。一つは状態を改善するために研究して努力するようにする建設的な不満で、もう一つは恨んで不評するようにする破壊的な不満です。広野を行進していたイスラエルの子孫達の不満足は結局神様に向いた恨みと不評として表出されて、彼らの不満をこのような方式で表わすことで状況をより悪化させました。恨んで不評した者達は懲罰を受けてカナンに入られず、広野で躊躇い死にました。顧みてみるとエジプトの奴隷生活から自由を得たのが全的に神様の能力によったので分外の恵みです。なのにも彼らは神様に向いて恨んで不評しました。このような身持ちをしたのは彼らが心を高くして傲慢になったからです。心が傲慢になると自分が持った全てのことを当然なことに扱います。その反面、心を低くして謙遜になると自分が持った全てのことを神様の恵みとして知り、過分に扱います。神様に向いた感謝が心の中から吹き出します。

第二は、頑なな心を砕けなければなりません。

人の心は大体に頑固として頑なです。このような心は苦難を通じないとよく砕けられません。聖書に記録された多数の偉人も試練と苦痛を通じて徹底に砕けられた人になり、その結果で神様の恵みを大きく被りました。苦難は頑なな心を砕けるために使われる道具です。従って、頑固で頑なな心を砕けられる神様の摂理の手にすばやく従うべきです。頑なな心の代表的な例がエジプトの王パロです。出エジプト記 7 章から 14 章に渡って神様がパロの心を頑なにさせたという御言葉が何回記録されています。このような御言葉は神様が柔和なパロの心を頑なにさせたという意味ではありません。この御言葉の誠な意味は神様がパロの頑なな心をそのまま置かれたという意味です。神様がモ-セを通じて奇跡を行われてパロの頑なな心を砕けようとなさったが、パロは最後まで固執して抵抗しました。不幸と災いは自ら取ることです。頑なな心、固い心が砕けられて良い畑になると神様の御言葉が彼の生活に根差し、伸てたくさんの実が結ばれます。

第三は、先入観と自己主張で満たされた心を空けておくべきです。

神様の御旨に背馳する先入観や主張は容赦なく捨てて心を空けなければなりません。しかし、それが容易くはありません。パウロ使徒は使徒になるまえに教会を恐ろしく逼迫しました。彼は聖書学者であったが聖書を自己本位で解釈して物事にイエスキリストを対敵することが神様に仕えることだと信じて行動しました。彼がダマスコに近づいた時、正午の太陽より明るい光に圧倒されて地に伏し”サウロ，サウロ。なぜわたしを迫害するのか。”という主の音声を聞いてその場でイエス様に対する誤った先入観を完全に捨てました。そして直ちにイエス様を自分の救い主と主として迎接しました。その日の以降、パウロはイエスキリストに向いて常に心を空けて生活しました。”主よ、私が何をしましょうか？”という態度を堅持しました。キリスト人はキリストの僕です。主の御旨を尋ねなければなりません。主の御旨に背馳する自分の先入観と主張は容赦なく捨てて心を空けるべきです。

皆さんは、傲慢な心は低くして、頑なな心は砕けて、神様の御考えと御旨に背馳する先入観と主張がある心は空けることを積極的に行うことで常に心を新にしてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

ヒゼキヤ王の危機対処方法

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書には、イスラエルの民族と国が形成され、維持されたが滅びる過程が詳しく記録されています。どの民族や国の歴史でもその中には、後世の人々に教訓的な出来事があります。しかし、イスラエルの歴史にあった多くの出来事は、神が人類のあがないに対したメッセージと一緒にクリスチャンを向けた霊的な教訓がいっぱいです。そして、私たちが直面する現実に対した正しい認識と対処方法を明らかに啓示しています。

イスラエル王政時代は大きく三つの部分に分かれています。統一王国時代と分裂王国時代と単独王国時代です。分裂王国時代は、北イスラエル王国と南ユダ王国に分かれているが紀元前722 年にイスラエルの王国がアッシリア帝国の侵略で滅びました。それから 136 年後の紀元前586 年にユダ王国がバビロン帝国の侵略で滅びました。ヒゼキヤはユダ王国の第 13 代の王で、ダビデ王の後に、南北王朝をひっくるめて最も顕著な人物として評価されます。
ヒゼキヤは紀元前 728 年に、彼の父親アハズと共同統治を開始し、25 歳から単独統治をして29 年の間に治めました。ヒゼキヤ王はダビデのすべての行為」のように、主の目にかなって行った王として評価されました。「ダビデのすべての行為」と同じだということは、神の命令に従うし、その律法に従ったことを意味します。
ヒゼキヤは宗教改革を断行しました。高き所を除きしました。その中に高き所により神殿での礼拝が軽視されてきた高き所が除去されたので、神殿での礼拝が回復しました。柱の偶像を破ってアシェラ木像を除き青銅の蛇を壊しました。
青銅の蛇の由来はこうです。
イスラエル人が出エジプトして荒野を行進していたところ、神に恨み不平を言ったゆえに神が火の蛇を送られました。人々が火の蛇に噛まられ死にました。モーセが祈ったので、神が指示されるのを青銅で蛇を作って竿の上に吊りますと火の蛇に噛まられた民が眺めて見ると、生かしとなりました。モーセがそのままにしたので竿につい青銅の蛇を見る者は生きました。後日、カナンの地に定着したイスラエルの民は記念碑に過ぎない青銅の蛇を崇拝し始めました。ヒゼキヤ王は溶断を下げて、この青銅の蛇を壊しました。青銅の蛇を崇拝するのは、神に罪を犯しているからです。ヒゼキヤ王は大胆で進取的でした。国際情勢を把握し、適切に対処するのに有能でした。しかし、彼も失策を犯したことがあります。
ヒゼキヤ王の第 14 年に、アッシリヤの王セナケリブがユダに侵攻しました。ヒゼキヤは、最初にエルサレムをより強固に要塞化し、水の供給を遮断するために、上のキホンの井戸と周囲の川を防ぎ敵の水路を遮断しました。しかし、続くセナケリブの包囲、攻撃に到底抵抗が不可能になると降伏してしまいました。アッシリヤの王は、ヒゼキヤの降伏を受け入れし、莫大な戦争賠償金を要求しました。
これによって、王室と民の財政負担がひどく大きかったです。ヒゼキヤ王は神殿門の金と王宮の柱に塗られた金の部分もすべて除去し、賠償金を充当しました。当時、預言者イザヤはヒゼキヤに神を信頼すれば、必ず勝利すると予言し、最後まで抵抗するように指示しました。しかし、ヒゼキヤは、戦争の現状報告を聞いて信仰が弱くなり、降伏してしまいました。
ヒゼキヤ王がこのように失策を犯した後に再び心を整えました。そしてアッシリヤに対して強硬な姿勢をとりました。するとアッシリヤの王セナケリブが第 2 次侵攻をしました。アッシリヤの王は、主要な職責を務めた者に大軍を率いてエルサレムを攻撃するように指示しました。アッシリヤ軍はよどみなく進撃してエルサレムの前まで進撃してきてヒゼキヤ王を呼び出しました。ヒゼキヤ王は直接出ず、三人の高官を派遣しました。アッシリヤの王の臣下ラブシャケがユダの使者たちにヒゼキヤが何を信じ考えているのかアッシリヤを裏切っかと嘲笑しました。ラブシャケは大きな音を出して、ヘブライ語で言って民を懐柔して説得しました。「ヒゼキヤ王の言葉を聞いて従わな。主に依頼すれば救ってくださるという言葉にだまされてはならない。」「アッシリヤの王の話を聞きなさい　あなたが降伏すると、あなたがたを豊かな場所に移住させてくれるだろう。」このような 話でラブシャケは民との間を離間させようとしました。ラブシャケは、このような脅迫と口車に並べたが、民はヒゼキヤの指示の通り沈黙を守って無返答しました。アッシリヤの王の家来ラブシャケにユダの管理は適切に対応していないままヒゼキヤ王にラブシャケの言動をそのまま伝えました。
ヒゼキヤ王が悲しんで服を裂き、低くなり姿勢で荒布を着ました。そして、主の殿に入って祭司の中年齢が多く人柄と徳望に優れた位置にある人々に荒布の衣を着ることによって、預言者イザヤのもとへ送られました。彼らは王の言葉を預言者イザヤに伝えました。まず、アッシリヤの 2 次侵入危機的状況に瀕している原因が、1 次侵入時に、神を完全に依頼せず屈辱的な降伏をしたことに対する神の懲罰だと認めました。第二に、解産する力がない妊婦のように国難を対処だけの能力がないことを告白しました。第三に、アッシリヤの王の臣下ラブシャケが高慢て神を嘲笑の話をしたので、神様が懲戒してくださることを期待し信頼を表明しました。第四に、預言者イザヤに祈りを願いしました。ヒゼキヤ王が危機に対処する姿勢は素晴らしい例です。
預言者イザヤは王が送った家来たちが伝える言葉を聞いて、神の望みなメッセージ二つを聞かせてくれました。恐れないようにしました。アッシリヤの王が良くない知らせを聞いて本国に帰ったが殺されるとしました。アッシリヤの王セナケリブの家来ラブシャケが経過報告をしようとリップナに行った王に会った。アッシリヤの王は、ラブ・シャケを介してヒゼキヤ王に降伏を促す最後通告を送りました。アッシリヤの攻撃を防いだ神がないと指摘して自分の神々を頼りにして、アッシリヤを対抗した王たちが滅亡したという事実を列挙しました。ヒゼキヤが神を依頼して、アッシリヤに対抗することも無謀な行為がなってしまうと脅威しました。ヒゼキヤ王はまだ状況の変化がなく、脅威は加重されたが、落胆しないでむしろ積極的に神に叫びました。
ヒゼキヤ王が使者の手から手紙を受けて読んで、神の殿に上がりました。主の前 にセナケリブが送った最後通牒の手紙を伸ばしておいて祈りました。ヒゼキヤは神の品性を列挙して祈りました。**「そして ヒゼキヤ は 主の 前に 祈って 言った， 「ケルビム の 上に 座しておられる イスラエル の 神， 主よ， 地のすべての 国のうちで， ただあなただけが 神でいらせられます． あなたは 天と 地を 造られました． 主よ， 耳を 傾けて 聞いてください． 主よ， 目を 開いてごらんください． セナケリブ が 生ける 神をそしるために 書き 送った 言葉をお 聞きください． われわれの 神， 主よ， どうぞ， 今われわれを 彼の 手から 救い 出してください． そうすれば 地の 国々は 皆， 主であるあなただけが 神でいらせられることを 知るようになるでしょう 」**（ **列王紀下 19：15,16,19**）と祈りました。
預言者イザヤがヒゼキヤ王に祈りの答えのニュースを次のように伝えました。 「イスラエルの神、主が言われたアッシリヤの王セナケリブのため私に祈るのを私が聞いた。神を依頼する者を誹謗して嘲笑し妨害する行為は、神へした行為とみなされる。アッシリヤの王は、自分の力で 国々を征伐したのように「私がした」と自慢していると言うが、実際には、神がすべての国々の興亡盛衰を主管される。神がセナケリブの一挙手一投足を観察なさる。神がセナケリブの図るのが無駄になるようにすると言われた。主の熱心がこれを成し遂げた。アッシリヤの王はエルサレム攻撃に失敗し戻ります。」預言者イザヤがエルサレムの救いを予言した日の夜にアッシリヤ軍人 18 万 5000 人が殺されました。神が天使を送って懲罰したのです。アッシリヤの王セナケリブはようやく死を免れて慌ててアッシリアの首都ニネベに退いたが、彼が仕える神殿で拝する時に、彼の二人の息子の手で殺された。

私たちは、ヒゼキヤ王に関する記録を通して、危機に対処する道について貴重な教訓を得ました。 第一 、常に普段着実に神様を喜ばせる信仰生活をしてください。第二に、神様の御言葉に不従順なことを悔い改めします。第三に、状況よりも、神の言葉に比重を置くのです。第四に、邪悪な者の言動に対して無視するか積極的に対応するかについて、正しい判断をすることができるように、聖霊様の助けを求めるべきです。第五に、害を及ぼす者の仕業や、自分が直面している問題の内容を明確に神の前に提示して助けを求めてください。第六に、祈りで協力してくれる方に祈って下さるのを要求しなければなりません。聖徒の皆さんは、ヒゼキヤ王が見せてくれた例を皆さんのことに受け入れるのを願っております。